

令和 5 年度システム改善・資源開発検討会議（縦レビュー会議）の報告について

目的： 各機関での虐待対応を通じた課題や取組の抽出から共通項を整理した上で、具体的な対応策を検討し、次年度の実践につなげること。

(1) 開催日時：令和 6 年 1 月 26 日（金）午後 1 時～午後 3 時 40 分

(2) 場 所：市役所分庁舎 2 階 大会議室

(3) 参加者：

高齢介護課、障がい福祉課、地域福祉課、東山手高齢者生活支援センター、西山手高齢者生活支援センター、精道高齢者生活支援センター、潮見高齢者生活支援センター、障がい者基幹相談支援センター、権利擁護支援センター、芦屋市社会福祉協議会

(4) 令和 6 年度取り組む課題

介入拒否により、面接・モニタリングが困難な対象者への見守り方法を検討する必要がある。

(5) グループワークにて出された意見

A	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人と連携する。福祉を高める運動研究会で民生委員・児童委員と共有する。 ・ご本人の興味あることの提供や困りごとへの対応により、関わりのきっかけをつかむ。(経済的援助、お米などの食料支援。FP と組むことで経済的課題への対応。役に立ちたい気持ちなど) ・対象者に受け入れてもらえるよう、対象者が好む性質を使い分ける。(性別・服装等) ・コンタクト方法にバリエーションを持つ (LINE、ボイスチャット、メール、手紙、通販事業や配食事業を始めるなど。)
B	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックシート作成 (どこまでやっているか見える化できるもの) ・(見守る人が増える) チームづくり (関係機関以外にも今つながっている人、趣味の仲間・近所の人等 たくさんの人) ・支援者のちょっとした困りごとを解決できる場の検討 ・関わりによって対象者がメリットを感じられるものを提供する ・当事者で話し合える会の設定
C	<ul style="list-style-type: none"> ・成功・失敗事例を共有し、事例を蓄積 (AI の活用ができれば) し、介入・安否確認の方法や、介入のきっかけとなったポイントを共有する。また、事例を元に、積極的な支援が必要となる目安を作る。 ・事例の共有は、終結会議・横レビュー会議等で行う。または、過去事例を各支援機関で振り返る。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・介入拒否の正体を知る。介入拒否の理由を分析する。 ・そもそも面接やモニタリングには計画が必要であり、計画を立てるにはアセスメントが必要であるが、現状個々の頭の中で考え、対応している。 ・理想は、会議体等でアセスメントし、計画を立てモニタリングしていくことではあるが、現状そのように対応すると時間が足りず、業務が回らなくなる。 ・理想と現実を埋めるための手法として、個々のスキルアップを行うことがあげられ、

	<p>「介入拒否」の要因を支援者が適切にアセスメントできるよう、スキルアップのための研修を実施する。(本人のニーズと支援者のニーズのギャップを明らかにする。)</p> <p>・「支援者の役割=何をする人か」知ってもらうキャンペーン</p>
--	---

(6) 令和6年度取り組む課題についての検討

各チームから出た意見を縦レビュー会議後の事務局会議で検討

以下、3つに意見を集約している。各取組案について、各関係機関の会議で意見をもらい、協議していく。

①精神科医師による SV 体制の検討

(予算等も含めて、SV体制を取ることができるかも含めて検討)

②介入拒否ケース対応についての研修実施

(権利擁護センターの研修企画として実施予定。研修企画希望者を関係機関から募る)

③介入拒否ケース対応におけるチェックシートづくりを検討

3月の各横レビュー会議で「介入拒否ケース」を振り返り(蓄積し)、令和6年度にチェックシートづくりを進めていく。